

# 特別支援教育だより

No.2

さくら市立氏家小学校

令和7年11月5日

「ほめ方・しかり方のポイント」を紹介したいと思います。

## ① 心から

- ・子どもは、何かできた時には成功感や成就感を味わい、自尊感情を高めています。子どもの気持ちになって、「できたね」「えらかったね」「すごい」「優秀」と心からほめます。

## ② 毎回見逃さず、気付いたら すぐに

- ・子どものよい行動を見つけたら、その時その場ですぐほめます。『すぐに』がポイントです。

## ③ 身近な人にほめられるのが効果大

- ・お家の方、担任の先生や友達など、親しい人からほめられるのが、最も効果があります。

## ④ 子どもに成功感・成就感を与える

- ・「何をしているの！」「どうしてできないの！」などと言われ続ける  
→ だんだんやる気がなくなります。
- ・ほめられる → 成就感を覚え、次第に、人にほめられなくても自分で自分をほめること(自己強化)ができるようになり、やる気が出てきて意欲が高まっていきます。

## ⑤ すぐにできそうにないことは、課題をスマールステップに分けて、できたことをほめる

- ・複雑な課題や難しいことは、スマールステップに分けて1ステップごとに「できた」という成功感を味わえるようにします。

## ⑥ 今、一番効き目のあるごほうびを探す

- ・最初に玩具のようなごほうびを使う場合も、必ずいっしょに「言葉でほめる」ことが大切です。そうすることで、言葉でほめられることが効果を示すようになっていきます。

## ⑦ できればやめさせたい行動は、しからずに知らん顔をする

- ・一番いけないのは、「いけません」と言いながら、やらせてしまうことです。  
「話を聞いて、その通り行動する」という基本的な学習態度が身につかなくなってしまいます。

## ⑧ できるだけ、しからない

- ・絶対に許せないこと以外はできるだけしからないようにします。自己肯定感がもてなくなります。

## ⑨ どうしても しからなくてはならない時は、短くきっぱりと

- ・何が何でもやめさせるという、強い決意で、短い言葉で伝えます。

## ⑩ しかりっぱなしにせず、最後はほめて終わらせる

- ・しかってやめさせた場合、話が聞けたことを認め、すぐほめることが、何よりも大切です。

※完全にやめなくても、やめようとはじめた時点でのめてしまうのもひとつの手法です。(例)「やめられたね!えらいな」「きっとできると思っていたよなど

子どもの「良い行動」に注目し、ほめることを根気よく続けていくことが大切です。

